

端野町の行政区と

自治組織の変遷(その5)

自治組織モデル提示と改革

端野町の自治組織モデルを検討してきた駐在員会において、昭和六二(一九八七)年一月、次のような自治組織のモデルを提示しました。(下部に記載)

○モデルにおける各組織構成と役割

◎自治連絡会

自治連合会長(各字区総代)十人で構成、毎月一回自治連絡会を開催、地域活動の問題点の整理、活動方針の決定、また、次の専門部を設け、各活動を行う。さらに、行政からの依頼、照会事項の協議、各連合自治会からの行政に対する要望、意見の具申等を行う。

○専門部

◎環境保健部

各連合自治会環境保健部長十人で構成
・担当業務
花いっぱい運動、清掃活動、ゴミ回収活動、花木園の運営、健康づくり運動、共同募金等に

関する業務
・団体との関係
社会福祉協議会、共同募金会、日赤端野分会、健康づくり推進協議会等の役員となる

◎交通防犯部

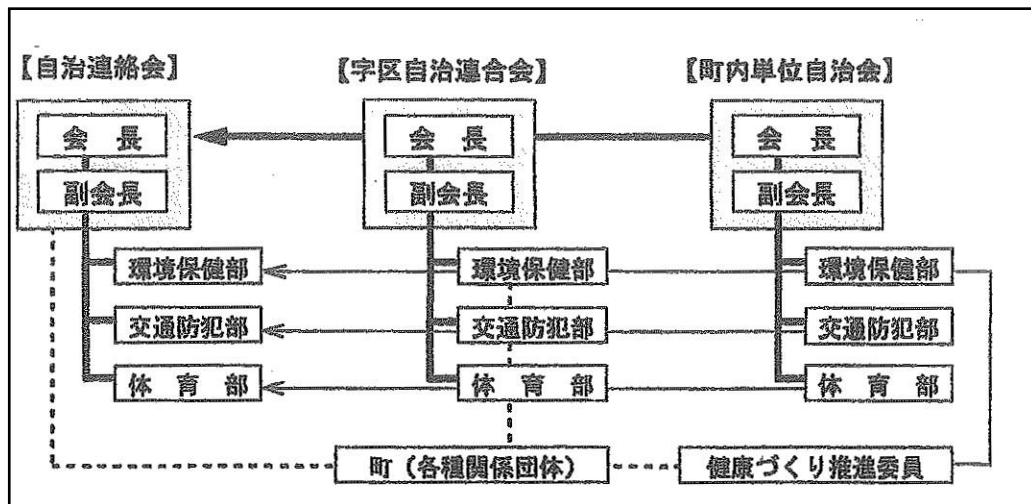
各連合自治会交通防犯部長十人で構成
・担当業務
交通安全運動、防犯活動、

消防に関する業務
・団体との関係
交通安全運動推進協議会、防犯協会、消防後援会の役員となる

◎体育部

各連合自治会体育部長十名で構成
・担当業務
町民運動会、町民のスポーツ、レクリエーション活動に関する業務

自治組織のモデル



○各字区連合自治会

各自治区（町内会）長により構成

字区内の活動方針の決定、事業予算、決算に関する事項、各種事業の執行、字区内各種団体の育成と活動の助成、地域活動施設の維持管理業務

○町内単位自治会（町内会）

一般的な町内活動

このモデルを掲示し、各字区内での検討、協議の結果、昭和六三（一九八八）年四月一日から、これまでの「駐在員条例」を廃止し、新たな住民自治組織に移行しました。

また、自治活動の総合的な連絡調整機関として、また住民と行政との連携を図るために、各字区自治連合会長で構成する「自治連絡会（総代連絡会）」を設置し、時代の変化や生活意識、価値観の多様化に対応し、また地域の特性を活かした諸活動が進められてきました。

人口の減少と自治連合会の統合

新しい自治組織により諸活動が展開されてきましたが、少子高齢化と人口減少が進むなか、特に農村地区の人口減少が著しく、平成一二（二〇〇〇）年には忠志自治連合会が一五世帯、豊実自治連合会が二三世帯、北登自治連合会が二〇世帯まで減少してしまいました

た。自治会を構成する人口の減少は、自治会として諸活動を進めていく上で人的、経済的にも困難な状況になり、この解決策として、隣接する自治会との統合について議論が進められました。

このようなか、平成一六（二〇〇四）年一月一日から、豊実自治連合会と北登自治連合会が統合し「豊北自治連合会」となりました。

また、平成一九（二〇〇七）年四月一日から、忠志自治連合会が、一区自治連合会と統合しました。

このような経緯を経て、現在の端野自治区内の住民自治組織は、次のようになっていきます。

※端野自治連絡会

緋牛内、一区、二区、端野、三区、川向、協和、豊北の八自治連合会で構成

※各自治連合会の役員構成

会長、副会長（会計兼務）、環境保健部長、交通防犯部長、体育部長（一区、端野、豊北自治連合会には、地域施設の管理を担当するセンター長を配置）

※各自治連合会内の自治会の構成

・ 緋牛内自治連合会

東区、西区、南区、北区、中央東町、中央西町

・ 一区自治連合会

※単位自治会なし

・ 二区自治連合会

親交東、親交西、親交南、屯田、新栄、緑栄、朝日、親交団地、中央団地、東方

・ 端野自治連合会

第1、第2

・ 三区自治連合会

北栄、共進、第二、界進、愛し野、

東光、太陽、第三、共栄団地

・ 川向自治連合会

※単位自治会なし

・ 協和自治連合会

※単位自治会なし

・ 豊北自治連合会

※単位自治会なし

端野自治区内には、全地区に自治会があり、私たちが安全で安心して暮らしていくために大きな役割を担っています。

しかし、人々の結びつきや連帯することが希薄になりつつある現在、安全で安心して暮らしていくために自治会が担う役割はさらに大きなものがあり、これまでの活動を継続されんことを心から願っています。